

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第1部門第1区分
 【発行日】令和3年12月9日(2021.12.9)

【公表番号】特表2019-520046(P2019-520046A)
 【公表日】令和1年7月18日(2019.7.18)
 【年通号数】公開・登録公報2019-028
 【出願番号】特願2018-557413(P2018-557413)
 【国際特許分類】

C 1 2 N 15/11 (2006.01)
 C 1 2 Q 1/6869 (2018.01)
 C 1 2 N 15/09 (2006.01)
 C 1 2 Q 1/6837 (2018.01)
 C 1 2 Q 1/6876 (2018.01)
 C 1 2 Q 1/6811 (2018.01)
 C 1 2 Q 1/6874 (2018.01)

【F I】

C 1 2 N 15/11 Z N A Z
 C 1 2 Q 1/6869 Z
 C 1 2 N 15/09 2 0 0
 C 1 2 Q 1/6837 Z
 C 1 2 Q 1/6876 Z
 C 1 2 Q 1/6811 Z
 C 1 2 Q 1/6874 Z

【誤訳訂正書】

【提出日】令和3年10月20日(2021.10.20)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0036

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0036】

本明細書のいくつかの実施形態の組成物、方法、およびオリゴヌクレオチドのオリゴヌクレオチド種は、本明細書に記載されるようにバーコード領域とユニフォーム領域とを含みうる。バーコード領域は、ユニークオリゴヌクレオチド種集団の多様性を提供するためにユニークオリゴヌクレオチド種間で異なりうるのに対し、ユニフォーム領域は同じままである。バーコード領域は、本明細書に記載されるように分子インデックスを含みうる。分子インデックスは、たとえば、ユニークオリゴヌクレオチド種集団中のユニークオリゴヌクレオチド種が50%超のG含有率の分子インデックスを持たないようにおよび/または配列「GG」が分子インデックス中に現われないように(たとえば、2個の連続したGが存在しないように)G含有率を最小限に抑えることにより、バイアスを最小限に抑えるように構成可能である。任意選択的に、バーコード領域はサンプルインデックスを含む。サンプルインデックスは、所与のプールのユニークオリゴヌクレオチドのサンプルインデックスは同一でありうるが分子インデックスは異なりうるように構成可能である。このため、複数のサンプルを分析する場合、サンプルインデックスは、各オリゴヌクレオチドがどのサンプルに対応するかを表すことが可能である。このため、ユニークオリゴヌクレオチド種が標的に結合した後、ユニークオリゴヌクレオチド種をプール可能であるとともに配列を分析可能である。いくつかの実施形態では、サンプルインデックスは分子インデックスの5'側にある。いくつかの実施形態では、分子インデックスはサンプルインデック

スの5'側にある。任意選択的に、ユニークオリゴヌクレオチド種はアダプターを含む。アダプターは、バーコード領域の5'側に位置決め可能である。いくつかの実施形態では、アダプターは、ユニークオリゴヌクレオチド種を基材に固定するように構成される。